

后妃陵

後土御門院 嘉樂門院○母后信子 後柏原院 後奈良院 豊樂門院○母后藤子 正親町院
後陽成院 中和門院○母后前子 如此御代々御火葬連綿相續仕候、

〔古事記中垂仁〕大后比婆須比賣命之時、定石祝作、又定土師部、此后者葬狹木之寺間陵也、

〔日本書紀垂仁〕三十二年七月己卯、皇后日葉醉媛命薨○中土物始立于日葉醉媛命之墓

○按ズルニ、日葉醉媛皇后ノ墓ヲ、古事記ニハ陵ト爲シ、日本書紀ニハ墓ト爲セリ、當時其稱ノ
一ナラザリシナラン、然レドモ皇后ハ普通ニハ墓ト稱セシコト、此文ニ據リテ見ルベシ、

〔延喜式

諸陵二十〕狹城盾列池上陵磐余稚櫻宮御宇神功皇后在大和國添下郡兆域東西二町南北二町守戶五烟

〔日本書紀神功〕六十九年四月丁丑、皇太后功崩於稚櫻宮、十月壬申、葬狹城盾列陵、

〔輶軒小錄〕山陵の事

神功皇后の陵は、奈良より西三十町許にありと云ふ、上に梓宮を奉藏する處あり、人畏れ敢て近付かず、其脇に二斗許入る壺多くあり、大様一間四方に一つ程のわりにて、地に埋め有りと云ふ、

〔續日本紀淳仁〕天平寶字四年十二月戊辰、勅太皇太后宮○文武后藤子娘、中略、御墓者自今以後並稱山陵、

〔延喜式二十〕佐保山西陵平城朝太皇太后藤原氏、文武后宮子娘在大和國添上郡兆域東西十二町南北十二町守戶五烟

〔續日本紀淳仁〕天平寶字四年十二月戊辰、勅中皇太后原安宿媛在大和國御墓者自今以後並稱山陵、

〔延喜式二十〕佐保山東陵平城朝太皇太后藤原氏、聖武后藤子娘在大和國添上郡兆域東西三町南北七町守戶五烟

〔續日本紀光仁〕寶龜二年十二月丁卯、勅先妣紀氏未追尊號、自今以後宜奉稱皇太后、御墓者稱山陵、其忌日者亦入國忌例、設齋如式、

〔延喜式二十〕吉隱陵皇太后紀氏、光仁母后藤原氏、在大和國城上郡兆域東西四町南北四町守戶五烟